

朗読の会 ともしび



30年以上にわたり、視覚障害者へ広報誌の声による情報提供を行うほか、特別養護老人ホームを定期的に訪問するなどのボランティア活動を続けてきた「朗読の会」ともしびが、福祉分野のボランティア功労者として平成29年度厚生労働大臣表彰を受賞しました。

優しく灯すように

会の発足は昭和57年主婦を中心に結成しました。今年になって2人の新会員が加わり、現在、会員数は13人。全員女性ですが以前は男性の会員もいたそうです。会長の西村さんは発足当時から会員の活動を続けています。会の活動は3グループに分かれて行っています。毎月1回、「市報しものせき」から豊北町中心に情報を選んで90

分のカセットテープに吹き込み、視覚障害のある方に無償で貸し出します。偶数月には「しものせき」社協だより、「奇数月には「Hot Line ふくしの輪」ほく地区社協連合会だより」の情報も吹き込みます。3グループはそれぞれ、町内の公民館などに集まり吹き込み作業を行います。「みんなで集まってどの情報にするかをワイワイとやるのが楽しい」と皆さん。いざ吹き込みが始まると真剣そのものです。2カ月に1回は、地域の特別養護老人ホーム「白滝荘」を訪問し、民話などの朗読や紙芝居をしたり、懐かしい歌と一緒に歌ったり、お年寄りの方と触れ合う交流もします。年に1回程度は豊北こども園の園児たちに「ほうほくの民話」を朗読することがあり、子どもたちの笑顔に皆さんも癒されるそうです。西村会長は「会の名前はともしびです。ろうそくの明かりが優しく辺りを灯すように、控え目だけれど地道に活動を続けていきたい」と話します。

厚生労働大臣表彰に感謝！

長年にわたり続けられてきた皆さんのボランティア活動が認めら

れ、厚生労働大臣表彰を昨年11月に受けました。

1月16日には市役所で伝達式があり、会を代表して西村会長のほか3人が出席。西村会長が前田市長から表彰状を受け取りました。西村会長は「ボランティアが自分の生活の充実につながっています。表彰いただいて心苦しいですが、元気な限り活動していきたい」と感謝しました。

個性を持って自分らしく

「朗読や広報誌の吹き込みは、会員それぞれ豊北なまりが入った個性豊かで自分らしい話し方です。それを直さず、みんな違ってみんな良いでやっています」と西村会長。「これからも豊北町の多くの方に、広報誌の声による情報などを活用してもらいたいです」

豊北町内で、声の広報誌、朗読などを希望される方や入会希望の方は豊北町ボランティアグループ連絡協議会事務局(☎782-1745)まで問い合わせを。



表彰状を受ける西村会長



前田市長との懇談



受賞を喜ぶ「朗読の会 ともしび」の皆さん



「朗読の会 ともしび」西村会長(前列右から2人目)と皆さん



広報誌の情報を心を込めてテープに吹き込みます



広報誌から豊北町在住の人向けの情報を選びます